

生きる仲間

発行日 平成6年12月20日

発行 札幌腎臓病患者友の会

責任者 鈴木啓三

住所 札幌市東区北18東1
喫茶クインテス内

電話 741-4578

結成20周年記念パーティー開催

腎登録街頭キャンペーンに37名の登録



(10月23日20周年記念パーティー～ホテルKKR札幌)

結成20周年記念

30周年に向け決意も新たに

祝賀会に一五〇名が集う

一九九四年十月二十三日(日)札幌腎臓病患者友の会の二十周年記念祝賀パーティーがホテルKKR札幌五階丹頂の間で開催されました。会員・家族一五〇名余りが参加

し、機事務局長の開会挨拶で始められ、物故会員への黙とうのあと鈴木会長の「二十年の歴史の中で先輩たちの血のにじむような活動があったことを、私達は忘れてはなりません」との挨拶。その言葉は、会長の二十四年の透析人生における感慨であり後輩へ引き継がなければならないものなのだと感じました。また、求賢の今先生、田島先生、平野先生、道腎協の岩崎会長より励ましのお言葉を戴き、長期透析者の表彰に移りました。二十年以上の表彰者五十五名、十年以上十五年までの方・七九名が表彰されました。

会場での、皆さんの元気そうな顔を拝見していますと、私のようにまだ七年くらいの者にとって大変勇気づけられる思いがしました。

鈴木会長は、二十四年透析をしております。皆さんに、会場でお配りした名簿・しおりは、会長みずからワープロをたたき、一冊一冊綴じて作成しました。

二時間余りの会でしたが、こうして、開催されるまでの幹事さんの努力も皆さんに分かって戴きたいと思います。

パーティーは、小樽・後志地方腎友会の斉藤一子会長の乾杯の音頭で宴に移り、室蘭地方腎友会の

佐藤文俊社中による津軽三味線のアトラクションや、お楽しみ抽選会で盛り上がり、お腹も一杯になったところで、堀井副会長の「二十年以上の人は二十年以上、二十年以上の人は三十年、四十年以上を日指して頑張ってください」との閉会の言葉で幕を閉じました。

早くからパーティーの準備にあたられた実行委員の皆様、大変お疲れさまでした。

なお、来賓の方及び祝電・メッセージ・御祝儀、御寄付を次の通り頂戴しております。紙上をもって厚く御礼申し上げます。

(報告 三上留美子)

式次第

☆開会のあいさつ	榎全	勇員
☆黙とう	鈴木啓三	
☆会長のあいさつ	鈴木啓三	
☆祝辞		
北海道透析医会会長	今忠	忠正様
札幌透析医会会長	田島邦	邦好様
市立札幌病院腎移植科	平野哲	哲夫様
北海道腎臓病患者連絡協議会会長	岩崎薫	薫様
☆祝電・メッセージ披露	佐藤朱美	朱美様
☆長期透析者表彰(表彰状及び記念品贈呈)		
20年以上	55名	
10年以上15年未満	179名	
☆乾杯	斉藤一子	一子様
☆アトラクション(津軽三味線)		
1. 曲名「津軽三味線みだればち」		
奏者 佐藤文俊、佐藤俊彦		
2. 曲名「津軽タント節」		
唄 作田紀子		
3. 曲名「津軽小原節」(津軽民謡大会受賞曲)		
唄 袴田幸恵		
☆抽選会		
☆閉会のあいさつ	堀井和彦	和彦様



二十周年記念パーティー

◎来賓

北海道透析医会

会長 今 忠正先生

札幌透析医会

会長 田島邦好先生

市立札幌病院腎移植科

平野哲夫先生

北海道腎臓病患者連絡協議会

会長 岩崎 薫氏

小樽後志地方腎友会

会長 齊藤一子氏

北 征子氏

高橋栄子氏

旭川地方腎友会

事務局長 大石 聡氏

深川腎友会

会長 鈴木春美氏

室蘭地方腎友会

事務局長 合田 晃氏

◎祝電・メッセージ

釧路地方腎友会様

北見地方腎友会様

旭川地方腎友会

深川腎友会様

道南腎臓病患者連絡協議会様

紋別地方腎友会様

苫小牧腎友会様

留萌水無人腎友会様

森永乳業株式会社札幌支店

支店長 熊野 均様

◎御祝儀及び御寄付

今 忠正先生

田島邦好先生

留目恭子様

平野哲夫先生

道腎協様

旭川地方腎友会様

小樽後志地方腎友会様

深川腎友会様

桜井宏一様

仁愛会外科院長 松尾喜徳先生

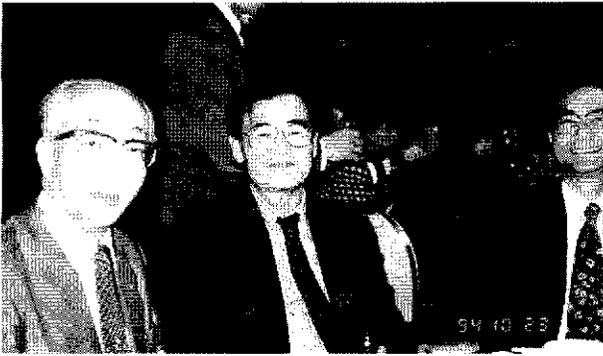
仁愛会外科前婦長 工藤子工様

ご遺族様

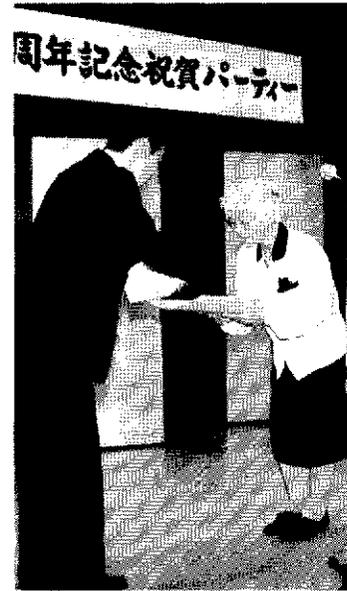
仁愛会外科チャリティーゴルフ

コンベ様

鈴木昭吾様



左から田島先生、今先生、平野先生



表彰状を手渡す



お楽しみ抽選会



祝賀会スナップ写真



受付風景



来賓席も話はずんで



アトラクションでは民謡も



37名の登録・輪が広がる

※地下街では腎移植パネル展

全道一斉腎登録街頭キャンペーン

今年には北海道の季節柄を考え、九月十一日に全道一斉に行う予定でしたが、札幌は雨天となり十月二日に変更実施されました。当日は大変良い天気となり、絶好のキャンペーン日和でした。



午後一時大通に集合。日曜日にもかかわらず患者・家族・札幌スノーライオンズクラブ・医師（市立病院）・腎移植者の会・道・札幌市保健予防課の方・腎バンクの方等、五十三名の参加を頂き実施いたしました。恒例の岩崎会長の挨拶にも一段と力が入り士気を盛り上げます。

本部は、腎バンクの登録受付や平野先生による健康相談、血圧測定等、他の多くの皆さんは献腎のパンフレット・ティッシュ・風船を持って大通りを中心に広範囲に渡り、道行く人達、ベンチや芝生でくつろいでいる人達に呼びかけ、腎臓提供登録をお願い致しました。今回も教社の放送局がカメラ取材に見え、皆さんの熱意ある姿を撮って夕方にはテレビ放映されました。

その結果、市民の皆さんから三

十七名の登録を頂きこれまでにない成果を上げました。少しずつではありますが、皆さんの呼びかけが、浸透しつつ有ります。

今わが国では、臓器移植法案が国会で取り上げられようとしていますが、その先はまだ見えませんが、我が国では脳死は社会的に人の死とされていませんが、殆ど全ての先進国では、法律上（例・アメリカの多くの州）または法令による規定なしに医学的、社会的に（例・イギリス・ドイツ）脳死は人の死とされています。

脳死判定については、アメリカでは統一な基準で行われているが、ドイツ・イギリスでは医師会や医学会が作成した判定基準により統一に行われています。この例のように今、我が国では法律によって、脳死の基準を決めようとしています。これらは医師を手助けする糧とするもので、移植を推進させるものではないと思っています。

我々は市民にもっともっと臓器提供の意図を浸透させていき、自然な形で臓器提供を申し出るようにしたいものです。なお地下街の

オーロラスクエアでも十月十四日
 十六日の三日間に於いて腎移植
 パネル展が行われた事を報告いた
 します。

今年も多くの方々に御協力頂

き無事終了する事が出来ました。
 参加出来なかった皆さんも、自己
 管理に注意され、健常者と共に来
 年の腎キャンペーンに参加いたし
 ましょう。
 (報告 柳沼)

腎バンク登録者拡大街頭 キャンペーン参加者

なお、参加者は次の通りでした。

(敬称略)

◆平成六年十月二日

□札幌北クリニク

鈴木啓三、金丸洋子、神座敦子

□札幌北楡病院

今村まち子、望月悦子、望月克美

□田島クリニク

棚田まゆみ

□渡井医院

岩崎薫、竹内知子、佐藤範子、
 門田修子、岩崎紀威、城野紀子

□中野医院

新山正紘、福原真理子

□勤医協丘珠病院

柴田鉄夫、木谷憲男、田中まゆみ、
 佐々木正雄、佐藤由美子

□宮の森記念病院

川村隆志

□札幌東クリニク

佐々木美智子

□いのけ医院

三沢祥子

□光星泌尿器科医院

三上留美子、佐藤功、津田靖典

□清田泌尿器科

棧 勇

□河口内科クリニク

飯村 歩

□幌南病院

笠原澄子

□手稲溪仁会病院

棚田英明

□北三条泌尿器科クリニク

宮本好和

□橋本内科クリニク

大野文夫、熊谷始

□うえと医院

柳沼正一

□腎臓移植者の会

大西政弘、佐々木利成、
 後藤久視子

□北海道難病連

大森浩明

□市立札幌病院スタッフ

平野哲夫、西垣文敬、篠永梨佳、
 有壁優子

□北大病院スタッフ

作田真智子

□沖縄県コーディネーター

岩沢光興

□北海道腎臓バンク

横山寿美子

□道庁保健予防課

渡部史朗

□札幌市保健予防課

辻 和郎

□札幌スノーライオンズクラブ

伊藤安彦、金井哲夫、森亮一、
 玉村志津夫、

□一般

金平智美、小泉信浩

□一 般



猛暑にも負けず 豚汁とジンギス汗



パッチリ! あとは出来上りを待つだけヨ

「支笏湖モーラップキャンプ場にて」



開会式で手順を説明

炊事遠足報告

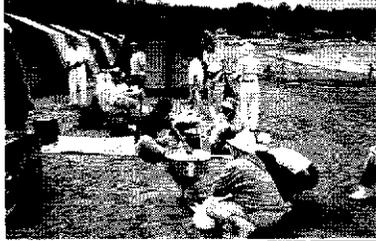
暑くても
美味しかった。

平成六年八月二十八日、残暑と言うには、あまりにも厳しい暑さの中、支笏湖のモーラップキャンプ場で恒例の炊事遠足が行われました。毎年マイクロバス二台を借り光足泌尿器科の堀井さんと石川医院の辻さんに運転をお願いし、今年もスタンバイしておりましたが、堀井さんの方に急用が生じ、ドライバーが1名不足という事態となり、急遽、中央バス(五十五名乗り)に変更する事になりました。

さて、当日朝、九時三十分出発の地下鉄真駒内駅には九時前から参加者がぞくぞくと集合し、定刻にモーラップへ向けて出発しました。約一時間で現地に到着。会長のあいさつのあと、実行委員から簡単な説明があり、早速準備に取りかかりました。今回は例年になく参加者も八十数名と少な目で四班に分かれて実施しました。



とにかく暑くて少女バテ気味です



「ジンギス汗はこう焼く。」と達人は言う



お玉リレーにも熱がこもる



後始末も大切な仕事

とにかく日差しが強く、お年寄りの方々には日陰に退避して戴き、各班の元気者や、火熾しの達人などもいて、額に汗しながら、豚汁用の鍋の湯を沸かす姿には感動を呼ぶものがあったとか？

豚汁の出来上がりも各班まちまちで、早々と食べ終え、ジンギス汗にかかる班もありました。暑さのせいで食欲も今ひとつといった感じでしたが、それでも美味しいといながら、汗をふきふき、又食べていました。ひと段落したところで、お玉リレーやビンゴゲームに興じ、あちこちから歓声があがっていました。後始末をして午後二時に帰路に着く予定でしたが、暑さが厳しい事もあり三十分程度早めて解散しました。

辛い事故も無く、楽しい炊事遠足が出来たことに満足しながら、又来年も元気で皆が顔を合わせる事が出来れば幸いと思ひ、モーターを後にしました。

前日から材料をきざんだり、買物に走って下さった実行委員の皆様、たいへんご苦労様でした。

(参加施設は二十施設でした)

(報告 村本)

私のマラソン人生

宮の森記念病院 立岩 務



台風二十六号も去り、秋空のもと真駒内競技場を起点に、札幌市民マラソン大会が十月二日開催され、全道各地及び本州からのランナーが約八千人が集合、親子ペア、車椅子によるマラソン、一般五キロ、十キロ、ハーフマラソン、その中で、私は五キロに挑戦してきました。

これまで五十年あまり、私は私なりの人生を過ごし、さまざまな体験をしてきました。

中学時代は夏期は野球、冬期になるとスピードスケート、どちらかというとスケートの選手でした。そのときクラスメートから駅伝クラブに入らないかと誘われてこれ

がマラソンをするきっかけとなりました。高校生活に入って、陸上部とは縁のないものと思っていたのですが、たまたま陸上部の短距離選手と競争し、勝ってしまい、陸上部に所属。社会人になってからも国鉄北海道、室内陸協に所属。短距離、中長距離と、フルマラソンにもいくどか挑戦してきました。これまでの人生の大半を積極的

にはあるものである。心の中の善玉と悪玉、トレーニングを積んで、身体で把握する自分の力、力のかぎり懸命に走る、人工透析者だから無理などは、まったくのナンセンスであると思う。自分との闘いであり、人間に与えられた最大の力をだすべきだ。創意と工夫のある練習。無理、無駄、班を試す。自分を生かすべきである。幸運にも今私は生きているという思い。人は人に何かを与えている。何か大事なものを与え合っている。生きる。些細なきっかけて変わる人生。人の痛みを自分のものに。私は特別扱いを受けるのはきらいだ。人は論理や理屈では動かない。国鉄北海道では駅伝で競ってきたが、一人ではレースにならない。マラソンは完全燃焼を求める競技。一所懸命に取り組む姿勢が最も美しい。では今は、なぜ走るのか？走るのには自分のためにあるという解放感。楽しく走りたい。人間を大きく、丸くしながら、健康のために走る。軽いランニング、又は少しでも長く普通より早く歩くというように。現在は挑戦的に走ることは罪ではあるが、確かに若い健

康なときは、体力は全盛期であるが、今はそうはいかないのが現実である。この市民マラソンは障害者、車椅子によるマラソンもあり、東京、京都、広島からの出場者が毎年このレースに参加してきます。このレースではボランティアとして、お手伝いをさせていただきました。こうしたきっかけて走ることの楽しさや無理をせず、いきがいを素直に受け取るべきだと思う。とにかく感動を与えられる喜び、多くの市民ランナーがそうだと思うが、祭りのような賑やかな楽しい行事には、何となく心が弾む。いつ見てもすばらしい感動を覚える市民マラソンは走り始めてから喜怒哀楽の表現も次第にできるようになるが、大きな感動を味わうこともできるようになった。マラソンは、楽しみながら走ることに徹するが、五十歳の自分の力の限界をも試そうとする。

何とか来年もぜひ参加し一万メートルに挑戦してみたいと思っています。

◎難病連への協力事業活動として毎年取組んで頂いております、花火販売及び、ピアガーデン利用券販売結果が次の表の通りとなっております。
皆様のご協力ありがとうございました。

花火販売結果報告

平成6年度

施設名	販売売上額	還元金
札幌北クリニック	13,700	3,050
札幌北榆病院	17,200	3,950
石川医院	13,400	3,200
田島クリニック	30,600	7,200
渡井医院	29,200	6,600
三樹会病院	6,100	1,450
中野医院	9,400	2,100
宮の森記念病院	36,600	8,300
光星泌尿器科医院	7,900	1,800
札幌セントラルクリニック	31,600	7,400
サン内科外科病院	27,700	6,250
兼古循環器クリニック	27,500	6,400
芸術の森泌尿器科	31,000	7,200
自衛隊札幌病院	2,200	500
石狩病院	5,400	1,250
N T T 札幌病院	10,700	2,550
合計	300,200	69,200

ピアガーデン利用券販売結果報告

平成6年度

施設名	販売売上額	還元金
札幌北クリニック	160,000	16,000
三樹会病院	20,000	2,000
勤医協丘珠病院	10,000	1,000
光星泌尿器科医院	5,000	500
北三条泌尿器科クリニック	5,000	500
合計	200,000	20,000

事務局活動経過報告

- 8月7日 燃えれ(モエレ)我街'94に参加
27日 炊事遠足の買出し、仕込み(クインテス~15名)
28日 炊事遠足(モーラップ~81名)
9月1日 腎キャンペーン実行委員会(クインテス18時~8名)
2日 腎キャンペーンポスター発送
11日 腎キャンペーン雨天につき延期
13日 "全腎協、(143号)" "どうじん、(50号)" 発送
"生きる仲間、(29号)" 発刊
第5回20周年記念実行委員会(祝賀会の部・難病連~7名)
19日 20周年記念パーティー案内とパーティー券を発送
22日 腎キャンペーン案内と有料道路割引制度の案内を発送
10月2日 腎登録者拡大街頭キャンペーン(大通西3・西4~53名参加)
10月6日 20周年記念パーティー打合わせ(ホテルKKR札幌~3名)
18日 第6回20周年記念実行委員会(祝賀会・記念誌~クインテス)
22日 20周年記念パーティー最終チェック(道腎協)
23日 札幌腎友会結成20周年記念パーティー(ホテルKKR札幌~150余名)
27日 "生きる仲間、(30号)" 編集委員会
11月4日 第2回幹事会案内発送
11日 全腎協・JPC国会請願用紙発送
"全腎協、(144号)" 発送

○二十周年記念誌、お分け致します

記念誌"生きる仲間、"が若干残っていますので、一冊1,000円(送料込み)でお分けしております。

申し込みは、各施設幹事または事務局(741-4578)まで

■事務局だより■

- ◎第24次「腎疾患総合対策の早期確立」を目指す全腎協、並びに「ゆたかな医療と福祉をめざす全国患者・家族連絡会」(JPC)の国会請願署名・募金にご協力を戴きありがとうございました。失念してまだ提供されておられない方は、急いで幹事の方にお届け下さい。
- ◎難病連への協力事業として取組んでおりますお正月飾りの販売あっせんに、ご協力頂きありがとうございました。
- ◎'93年度分の寄付の一部に掲載もれがございましたので、ご報告を兼ね、お詫びを申し上げます。

12/2	中野医院	歌川氏	300円
3/24	徳洲会病院	藤次氏	564円
3/31	鉄道病院	樫原氏	1000円

大変申し訳ございませんでした。

■編集後記

○異常気象と言われた夏の暑さも、まるで嘘のように、外は今、十二月としては七年ぶりという寒波で凍りつき、道行く人達は襟を立て足早に家路へ急ぐ。年度当初から準備に取り組んで来ましたが、十月二十三日の記念パーティーを盛会のうちに無事終え、記念誌"生きる仲間"も完成し、皆様のお手元に

届いた事と思えます。皆様の暖かいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。
(村本)

○二十周年記念事業も無事終了しました。ここ迄来るには、多くの会員、役員、医療スタッフ等のご協力、ご支援がありました。季節柄、道路が大変滑り易いので、骨折などしない様、注意したいものです。
(堀井)